



# 米

## 中干し後の管理と 病害虫防除対策



岡部営農経済センター  
池田 昌行

間断かん水とは「浅水にして、水が無くなって  
も1〜2日そのままにしておき、再び浅水程度に  
水を入れる作業を繰り返す」ことです。これを中  
干し後に行うことで、根の張りを良くして倒伏や  
秋落ち防止・登熟向上に繋がります。  
※穂肥を施肥する場合は、充分かん水をして、3  
日間止め水で行います。

### 《高温障害対策》

こまめな間断かん水で根の機能活力維持を図  
り、呼吸作用の増加を抑制するため、冷たい水と  
の入れ替えを行います。特に日中の気温が35℃、  
夜温が25℃を超える日が続く場合は、かけ流しか  
ん水を行いましょ。出穂後5〜15日は夜間通水  
し、ほ場内の夜温を下げることで高温障害（乳白  
米）に対して効果があります。

### 《病害虫対策》

出穂期前後に病害虫の被害を受けると、米の品  
質・収量に影響するので必ず行ってください。エ  
バーゴルプラス箱粒剤を使用した場合は、紋枯病

まで防除は不要なので、ウンカ、カメムシ防除を  
行ってください。エバーゴルプラス箱粒剤以外を  
使用した場合は、ウンカ、カメムシに加え、紋枯  
病、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトム  
シの防除が必要です。

### 粒剤の場合

・ルーバンリンバー粒剤  
3 kg / 10 a (収穫30日前まで)

### 液剤の場合

・ダイアナSC 5000倍 (収穫7日前まで)  
・モンカットフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)

### 《斑点米カメムシへの対策》

斑点米カメムシの加害を受けた斑点米は、等級  
を落とす大きな原因になります。斑点米カメムシ  
の特性は、普段は畦畔や耕作放棄地などのイネ科  
雑草で暮らしていて、イネが出穂すると畦畔など  
から水田に飛び込み、穂を吸汁します。出穂10日  
前までに畦畔やほ場周辺の除草を行ってください。  
い。

《穂揃い期〜乳熟期にかけて2回は防除を》  
カメムシ防除

### 粒剤の場合

・スタークル粒剤 3 kg / 10 a (収穫7日前まで)  
・スタークル豆つぶ 250g / 10 a (収穫7  
日前まで)

・いもち病多発地区はイモチエーススタークル粒  
剤 3 kg / 10 a (収穫35日前まで)

### 液剤の場合

・スタークル液剤 1000倍 (収穫7日前まで)  
・いもち病多発地区はブラシンフロアブル  
1000倍 (収穫7日前まで) をキラップジョー  
カーフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)  
と混用で散布

1回目は、穂揃い期に必ず散布をしましょう。

2〜3回目は前回散布から7〜10日後に散布しま  
す。粒剤で散布する場合は、液剤散布より3日前  
に散布をしてください。日中暑い場合は、朝か夕  
方に散布し、雨が多い時は、晴れの合間をみて行  
いましょう。